

# 柘植地域 まちづくりだより 第273号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局  
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地  
(柘植地区市民センター内)

〒五一九一四〇二  
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三



発行日

2021(令和3)年10月1日(金)

柘植地域俳句コーナー  
豆腐買ひ  
釣瓶落としの  
道帰る  
西野 登志子

新型コロナウイルス・此の一年も『非常事態』の日々が連綿と続く

新型コロナウイルスの変異株・デルタ株の更なる変異株が出現し、此のウイルスの猛威は留まる所を知らず、今年一年も世界全体が其の脅威に晒され続けて来ましたが、足元の状況は漸く改善の兆しが出て居ます。世界の感染者数は発生以来、2億1900万人・死者数は455万人を超えました。

日本国内で初めて新型コロナウイルスに感染した事が確認されたのは昨年1月6日。中国・武漢に渡航して居た神奈川県に住む30代の男性が肺炎の症状を訴え国内初感染が確認されました。

其の後、「第1波」「第2波」を経て、昨年10月末に10万人を超え、此の後「首都圏」を中心とした年末年始の「第3波」、そして「イギリス」で、最初に確認された変異ウイルス「アルファ株」の感染が拡がった今年3月以降には「関西圏」を中心に「第4波」の急速な感染拡大が起き、国内

感染者数は4月で、50万人を超えました。

そして、感染力が更に強い「インド」で変異した「デルタ株」が主流と為った「第5波」は猛烈なスピードで感染が急拡大。国内感染者数は8月6日に100万人を超え、僅か26日後の、9月1日、150万人を突破。9月27日時点で、169万人を超え、死亡者は1万7千人を超えました。▼9月中旬以降、感染者数が急減し沈静化の兆候が出て居るも、油断は禁物です。

## 三重県及び伊賀市に発出された「行政措置」の経緯

- ①【緊急警戒宣言】1月15日～3月7日  
更に延長 5月5日迄(三重県全域)
- ②【伊賀市感染拡大防止強化期間】  
4月28日～5月11日迄
- ③【まん延防止等重点措置】(三重県全域)  
5月9日～5月31日迄
- ④【同、重点措置】6月20日迄、延長
- ⑤【リバウンド阻止重点期間】  
6月21日～6月30日

⑥【三重県指針 ver.12 第5波回避のために】7月1日～7月末迄

⑦【緊急警戒宣言】三重県全域・8月末迄

⑧【三重県まん延防止等重点措置】県全域  
8月20日～9月12日迄

⑨【三重県緊急事態措置】に変更9月末迄以上、今年に入って1月以降、9月末日迄の間、前述9件の【措置】が切れ目無く発出され続け非常事態の連続の日々でした。【緊急事態措置】の上野城・赤色ライトアップ





# 三重県 緊急事態措置

## 令和3年9月30日(木)まで 延長

- ・医療提供体制を守り、命を守る
- ・東海3県で面的に対応

### 人類はウイルスとの闘いの歴史

有史以来、人類は様々な感染症ウイルスと戦って来ました。

人類が唯一根絶したとされる「天然痘」は紀元前、エジプトのミイラに感染した痕跡が確認されて居り、ウイルスや細菌の出現は人類の誕生以前の出来事で、人類誕生と共に感染症ウイルスとの闘いが始まったと言っても過言では有りません。

其の「天然痘」が日本で猛威を振るったのが6世紀、以後周期的に流行。15世紀コロンブスの新大陸上陸に依り、アメリカで大流行。50年間で7千万人が死亡。

1796年、英国の医者「ジェンナー」が「種痘法」を開発。へ一度「牛痘」に掛かった者は、天然痘に掛からず「免疫」を獲得する事を証明

▼此の歴史的な功績に依り、ジェンナーは「予防接種」の父【ワクチン】の創始者と成りました。

▼1980年、WHO(世界保健機関)が「天然痘」の世界根絶宣言という人類にとっての金字塔を打ち立てました。

14世紀、ヨーロッパで「黒死病」と呼ばれる「ペスト」が大流行。当時、欧州丈で全人口の4分の1に当たる2500万人が死亡。

1918年、「スペイン風邪」が世界中で蔓延。第一次世界大戦中に発生、当時の世界人口(20億人)の3分の1が感染し、1920年迄の2年間で、死者数は約1億人に達したと云われている人類史上最大最悪の感染症へH1N1亜型インフルエンザ

世界的大流行へパンデミックを引き起こした背景は第一次世界大戦下、アメリカ軍を筆頭に参戦国の兵士が世界各国に侵攻

した事に因るもので、此の大流行に依り、膨大な数の兵士が亡くなり「徴兵」出来る成人男性が大きく減少した為、第一次世界大戦の終結が早まったと云われています。

新型インフルエンザの発生は、其の後も続き1957年、「アジア風邪」の大流行に因り世界中で、200万人以上が死亡。更に、1968年「香港風邪」で世界で100万人以上が死亡。

何れも【インフルエンザ・ワクチン】と【治療薬】が開発され、終息。

「新興感染症」として、人類に新たな脅威を与えているウイルスが1981年に発生した「エイズ」(後天性免疫不全症候群・HIV)・・・過去20年間で6500万人が感染し、2500万人が死亡/感染者の4割弱を死に至らしめた「AIDSウイルス」は血液・精液等の体液が感染源。

2002年、中国で発生した「SARS」(重症急性呼吸器症候群)に因り、9カ月の間に8千人以上が感染し8百人超が死亡。

過去に流行した感染症で一時は発生数が減少したものの再び出現した感染症「再興感染症」が問題と為って居ます。

「結核」・・・世界で20億人が感染、毎年、400万人が死亡して居た感染症。

1935年、日本での死亡原因の首位は「結核」だったが、1950年、「抗生物質」の開発に拠り発生数減少。然し、現在抗生物質に対して抵抗性を示す「結核菌」が出現し脅威と為って居る次第です。

『マラリア』・ハマダラ蚊が媒介するマラリア原虫の血球内寄生に因る感染症、1950年代、殺虫剤DDT等に依る根絶計画を実施し収束する迄、世界で年間3〜5億人が感染、100〜200万人が死亡。然し乍ら此のマラリアも治療薬に抵抗性を有するハマダラ蚊の出現に因り再び脅威。

▼前述の『新興感染症』に加え、再び抵抗力を獲得した「結核」「マラリア」等の『新興感染症』が新興国のみならず先進国に於いても、新たな脅威と為って居ます。

### 教育・文化部会からの活動報告

教育文化部会長・松山文雄さんから以下の投稿が有りました。

#### 冊子『柘植の昔ばなし』を刊行

教育文化部会では、このたび田中重之先生の編集のもと、柘植の歴史をわかりやすくまとめた『柘植の昔ばなし』を刊行いたしました。

柘植地域は京都・奈良と伊勢、東海を結ぶ交通の要衝として、古代から近代に至るまで数々の歴史の舞台となりました。

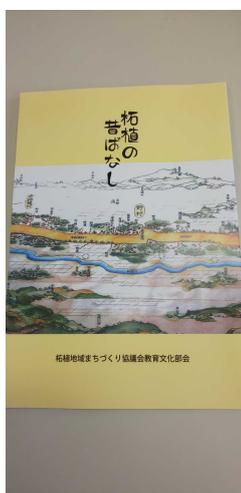
古代史の大きな出来事であった壬申の乱での合戦の場、天皇の代理として京都から伊勢へ向かう斎王群行の宿泊地、また徳川家康の伊賀越え、近代では三重県最初の鉄道駅としての柘植駅の開業など、当時の歴史の中心に深くかかわる地域でありました。

また、俳聖松尾芭蕉を生み、昭和の文豪横光利一もこの地域に深くかわっています。さらに東海、関東を中心に全国にひろがり、数々の著名人を生み出した柘植姓発祥の地でもあります。

教育文化部会では、令和元年、郷土の歴史に造詣の深い小林区の田中重之先生に「柘植の歴史と文化」をテーマに二回にわたってご講演頂きました。田中先生は、高校で教鞭をとられた後、柘植の歴史を深く研究され、最近では「郷土の歴史・民俗かるた」を編纂されるなど、広くご活躍されておられます。

本冊子はこの講演をもとに、次世代を担う子供たちに郷土柘植を誇りに思い、愛着を深めてもらいたいと願い、子供たちにも理解しやすいようにカルタ、写真などを多く取り入れ、田中先生にまとめていただいたもので、小学校高学年、中学生の皆さんには全員配布させていただく予定です。

子供たちだけでなく、地域の皆様方にも、ロマンあふれる柘植の歴史を知る機会としてご一読いただければ幸いです。(以上)



コロナ禍に在っては、様々な部会活動が制約・中止を余儀無くされる中、教育文化部会に於いても同様の状況下「柘植の歴史と文化」を製本化して、後世に残すべく本冊子を作成されたもの。此の『柘植の昔ばなし』は、柘植地域の類稀な「歴史遺産」と豊かな「地域文化」を土台にした優れた郷土史・歴史本に尽き、若者諸君への貴重な贈り物に成るものと思われれます。

次世代を担う柘植地域の人達に確実に継承され、更に発展して行く糧に成る事を願う次第です。

市民センターの側溝に咲いた  
『赤い鳳仙花』は、何想う？

夏の花「ホウセンカ」・・・東南アジア  
原産のツリフネソウ科の一年草。

夏のガーデンを彩る「鳳仙花」の種子は  
熟すと弾けて「種」を出来るだけ広範囲に  
飛ばし繁殖させようとする生存戦略が有り、  
ホウセンカの花言葉『わたしに触れないで』  
は、ちよつと触れただけで種が弾け飛んで  
仕舞う此の花の特徴・メカニズムを表現し  
たものとされて居ます。

市民センター玄関前の、グレーチングで  
蓋をした側溝の下から、昨年咲いたホウセ  
ンカの「こぼれ種」が発芽し、真っ赤な花  
を咲かせました。飛んで来た種が此の夏に  
開花したものでとても綺麗ですが、現下の  
コロナ禍を象徴する赤色の警告の様です。



「鳳仙花」を題名にした歌謡曲は数々有  
り「鳳仙花」さだまさし、「鳳仙花」島倉  
千代子、「ほうせんか」中島みゆき、「赤い  
鳳仙花」加藤登紀子、etc・・・数多く  
歌われて来ました。  
『はじめて飛んだ花だけど咲かせて欲しい  
ホウセンカ』・・・此の花の特徴を題材に  
した歌詞が多いのも頷けます。

緊急事態措置下の上野城  
赤色にライトアップ



★★★ 編集後記 ★★★

▼天高し 頭上に棚引く 罌雲・・・「巻積雲」  
の通称で秋を代表するイワシ雲。高度1万  
m前後に発生し小さいウロコ状の雲が高い  
空一面に広がる。漁師が「イワシの大漁」  
の前兆とした事から其の名が付けられたと  
云われて居ます。

▼「秋風に 棚引く雲の 絶え間より 漏れい  
づる月の 影のさやけさ」左京大夫藤原顕輔  
小倉百人一首に収められた仲秋の名歌。  
「秋風に吹かれて雲が棚引き、其の切れ間  
から漏れ出て来る月の光は、何と澄み切っ  
て明るく清らかな美しさだろう。」

▼今年の「中秋の名月」は去る9月21日  
「ハーベストムーン」 「収穫の月」と呼び、  
月がいつもより暖色に輝いて見えたのは、  
此の時期の月が地平線近くに位置する為。  
日の入りと月の出の合間が殆ど無く、月明  
かりが収穫期の農家を助けた事から命名。

▼月との距離は約38万km(太陽迄が約1  
億5千万km) 仮に、時速500kmのリニア  
新幹線で月に行くとしたら、32日で到達。  
月と太陽の大きさの違いが400倍有り、  
地球からの距離の違いも400倍有るので  
見た目の大きさがほぼ同じに為る次第です。  
皆既月食や皆既日食が起こる事由も距離と  
大きさの相関関係から来ています。(清水)